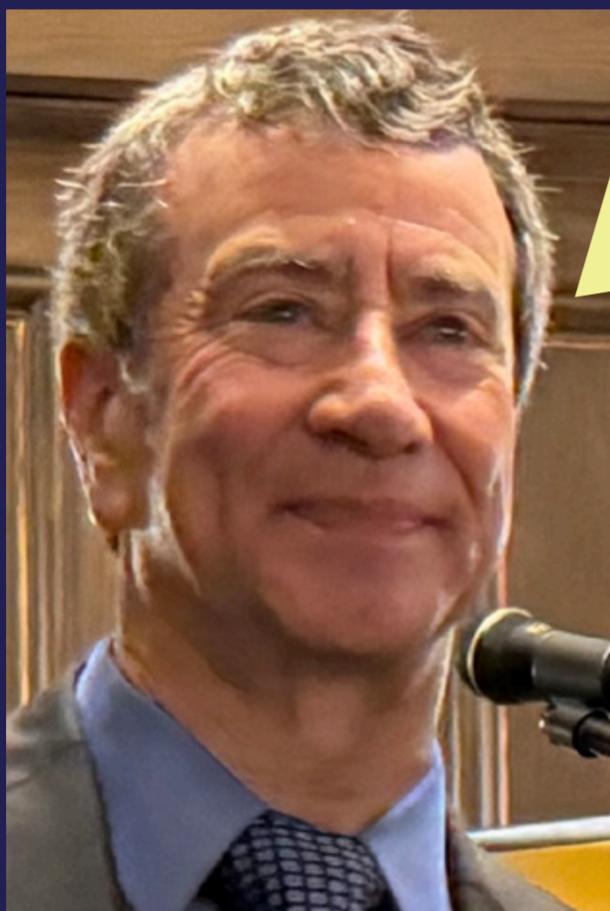


TOKYO COLLEGE

共に考える未来 Shaping the Future Together



講演者

Sheldon GARON

東京大学東京カレッジ
招聘教員；
プリンストン大学
教授

司会

Michael FACIUS

東京大学 東京カレッジ
准教授



主催

東京大学国際高等研究所東京カレッジ

言語

英語(日本語同時通訳)

お問合せ

東京大学国際高等研究所東京カレッジ
tokyo.college.event@tc.u-tokyo.ac.jp

東京大学国際高等研究所東京カレッジは、お申込みの皆様の個人情報を収集させていただきます。ご記入いただいた個人情報はメールによるイベントの案内、連絡等に利用する場合がありますが、いかなる第三者にも開示いたしません。

要事前登録



事前登録は
こちらから



facebook



X



Mail Magazine



講演会

Zoom
ウェビナー

世界大戦と 統後の「民心」： 国境を超えた 言説の構築と崩壊

20世紀に登場した「民心」という言説は、明確な定義がないまま現れ、かつてない数の人たちを死に追いやりました。ヨーロッパや東アジアの戦争当事国は敵国民の「民心をくじく」ために空爆や食糧封鎖を行い、多くの民間人が爆撃や飢餓の犠牲となりました。都市や民間人の心を攻撃することが戦争に勝つための「当たり前の手段」になった背景には何があったのでしょうか。民心に関する思想や実践は、第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、世界中で急速に広まりました。国を超えたその展開が、1914年から18年にかけての英独による相互海上封鎖、「民心動向報告」の導入、都市や軍事施設への空爆、米国の対日「飢餓作戦(Operation Starvation)」などの重大な事例につながりました。

2025. 10.22 (水)

15:00～16:00